第 380 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

学問的 & 科学的 & 人間的な役割 ～ 病理医の観察力 ～

2026 年 1 月 23 日 筆者は『病理組織診断』の業務に赴く。『病理医の役割 ＝ 顕微鏡を見て病気を診断する ＝ 森を診て木の皮まで診る ＝ 丁寧な観察力』である！

筆者は医師になり、癌研究会癌研究所の病理部に入った(1979 年)。 そこで、当時、癌研究所所長であった菅野晴夫(1925-2016)先生との大いなる出会いに遭遇した。 菅野晴夫先生に フィラデルフィア(Philadelphia)の Fox Chase Cancer Center（1905 年に米国で最初のがん病院の一つとして設立された）の Knudson(1922-2016)博士の下で『Science を学んでくるように』と留学(1989 年)の機会が与えられた(画像)。まさに、『自分の身長が伸びた』留学体験であった。 菅野晴夫先生から 1991 年に癌研実験病理部部長として、帰国するようにと指示を下さった。 2000 年 新渡戸稲造(1862-1933)『武士道』発刊 100 周年シンポでの講演もして頂いた。

菅野晴夫先生の恩師である日本国の誇る病理学者：吉田富三（1903-1973）との『邂逅』に繋がった(画像)。 菅野晴夫先生とは、2003 年『日本病理学会』と『日本癌学会』で『吉田富三生誕 100 周年記念事業』を行う機会が与えられた。 必然的に『がん哲学』の提唱へと導かれた。さらに、2008 年『陣営の外 ＝ がん哲学外来』へと展開した。

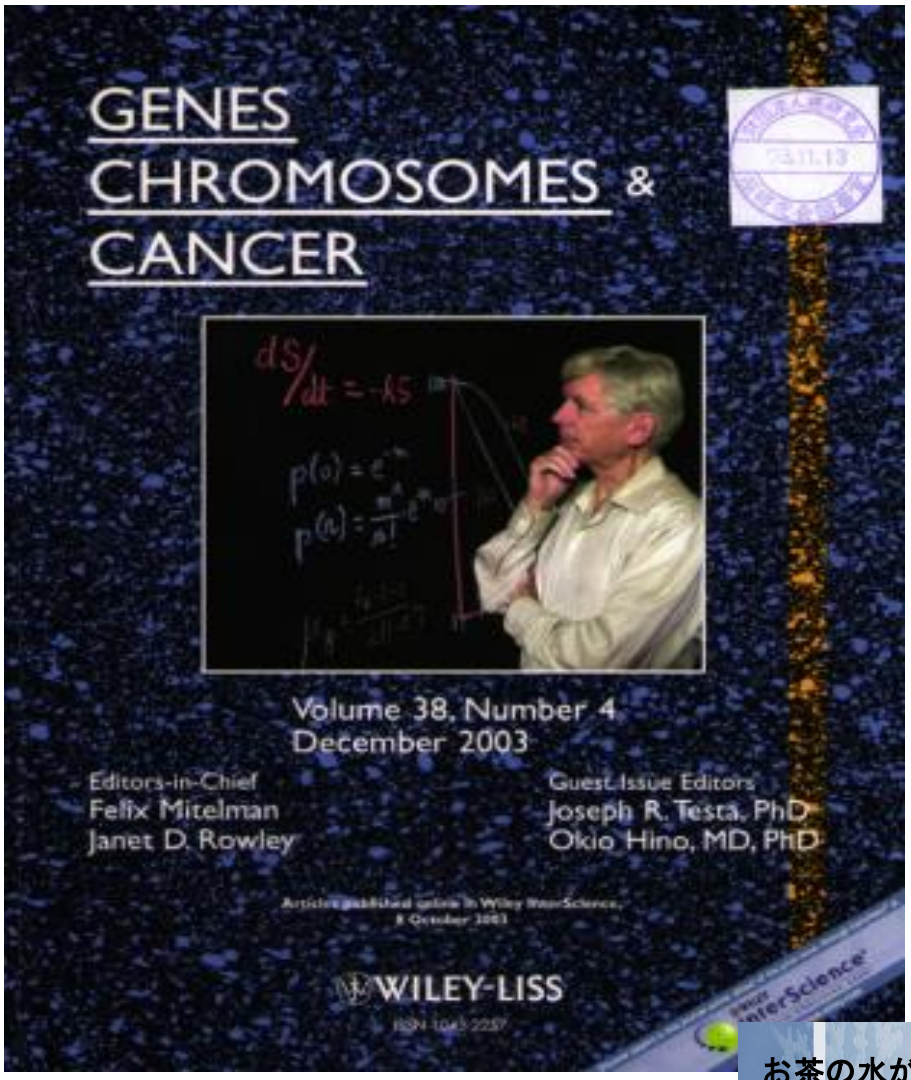
2009 年にスタートされた『吉田富三記念 福島がん哲学外来(福島県立医科大学附属病院がん相談支援センター)』(福島県福島市)に、来月も赴く。 個人面談の予約が入っているとのことである。【福島県出身の世界的病理学者 吉田富三博士を記念して、博士の孫弟子である樋野興夫先生が『福島がん哲学外来』を開設しました。 がんと共に生きる患者/ご家族の思いや悩みをともに考える“心の診察室”です。】と、心温まる紹介がなされている。 2013 年『吉田富三生誕 110 周年記念』が企画され、新聞記事が大きく掲載された。 2019 年には『吉田富三記念福島県立医科大学がん哲学外来 10 周年記念講演会』も開催された。 ただただ感服する。

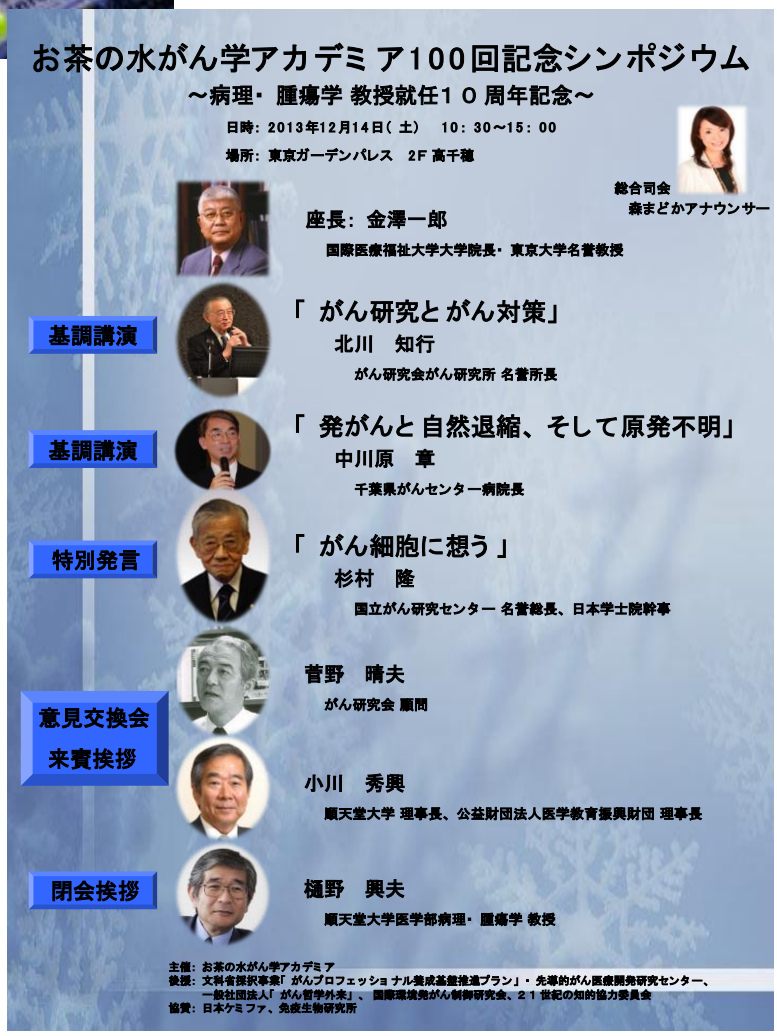
【顕微鏡でみた癌細胞の映像に裏打ちされた『がん細胞』で起こることは『人間社会』でも起こる』】＝『がん哲学 & がん哲学外来』

『医師の２つの使命』

（１）『学問的、科学的な責任』で、病気を直接治療する

（２）『人間的な責任』で、手をさしのべる。


GENES
CHROMOSOMES &
CANCER
Volume 38, Number 4
December 2003
Editors-in-Chief
Felix Mitelman
Janet D. Rowley
Guest Issue Editors
Joseph R. Testa, PhD
Okio Hino, MD, PhD
WILEY-LISS


お茶の水がん学アカデミア100回記念シンポジウム
～病理・腫瘍学 教授就任１０周年記念～
日時：2013年12月14日（土） 10：30～15：00
場所：東京ガーデンパレス 2F 高千穂
総合司会
森まどかアナウンサー
座長：金澤一郎
国際医療福祉大学大学院長・東京大学名誉教授
基調講演
「がん研究とがん対策」
北川 知行
がん研究会がん研究所 名誉所長
基調講演
「発がんと自然退縮、そして原発不明」
中川原 章
千葉県がんセンター病院長
特別発言
「がん細胞に想う」
杉村 隆
国立がん研究センター 名誉総長、日本学士院幹事
意見交換会
来賓挨拶
菅野 晴夫
がん研究会 顧問
小川 秀興
順天堂大学 理事長、公益財団法人医学教育振興財団 理事長
閉会挨拶
樋野 興夫
順天堂大学医学部病理・腫瘍学 教授
主催：お茶の水がん学アカデミア
後援：文科省採択事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」・先導的がん医療開発研究センター、
一般社団法人「がん哲学外来」、国際環境発がん制御研究会、２１世紀の知的協力委員会
協賛：日本ケミファ、免疫生物研究所

吉田富三博士を偲ぶ

樋野興夫

《樋野先生の夢》

7 人の侍：「勝海舟・新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三」と先生の恩師：「菅野晴夫先生（癌研時代）、Alfred George Knudson 博士（アメリカ時代）」と樋野興夫先生とで天国でメディカル・カフェを開催すること。希望者はお茶係に採用してくださるはずです。